

「あけぼの苑」恒例の餅つき大会を開催いたしました！！

12月10日、「あけぼの苑」入所利用者の約70名が参加し、恒例の「餅つき大会」を開催しました。

この「餅つき大会」は「あけぼの苑」の恒例行事の一つとして毎年、開催されていますが、今年は施設利用者の皆さんの中から約70名の皆さんに参加いただきました。

【豆知識】

年末の餅つきは、年神様を迎える準備であり、家族や地域の繁栄、無病息災、子孫繁栄を願うための大切な儀式です。鏡餅として飾ることで神様の力を授かり、新しい年を豊かに迎える意味が込められているそうです。

9時30分、前日から水に浸され蒸しあがったもち米、杵、臼が運び込まれ、利用者の皆さんも集まり、戦闘態勢が整いました。

最近では珍しくなった杵、臼ですが利用者の皆さんにとってはやはり、懐かしく、馴染みのある用具だったのか皆さん和みの表情を浮べていました。

男性職員の力強い打ち込みに参加者の皆さんからは自然と「ヨイショ」、「ヨイショ」が連発され、看護師長からは「腰を痛めないように」と注意を促されながらも職員は息を乱しながら一心不乱に杵を振り下ろしていました。

餅つき合いの手は幼少のころから餅つき経験豊富な看護部長です。さすがです。仕事ぶり同様に餅も綺麗に整わされました。

参加者の皆さんの中には「エア餅つき」をされる方、「ウソはつくが、餅はつかない」等々冗談を交えながらも久しぶりの杵の感触と振り下ろしに若いころを思い出していたように感じました。

また、餅つきベテランの利用者の皆さんからは「杵はしっかり水に浸さないとだめよ」、「今日のもち米はちょっと柔らかすぎ」等々、厳しい注意もしっかり、いただきました。

「蛇」から「馬」に代わる新年、あけぼの苑に関わる皆さんにとって幸多い一年でありますよう、本日、つき上げた「鏡餅」で新年を迎えます。

